

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名：先天性胆道拡張症における胆管形態・胆管・脾管合流形態と初発症状・胆囊胆管上皮炎症形態との関連に関する後ろ向き研究

研究の目的

先天性胆道拡張症は、総胆管を含む肝外胆管が限局性に拡張する先天性の胆管形成異常で（肝内胆管の拡張を伴う例もあります。）、脾・胆管合流異常を合併するものをいいます。適切な時期に適切な治療を行えば、基本的には極めて予後は良好です。

しかしながら、成人期には先天性胆道拡張症（脾胆管合流異常症）は高率に胆道癌を合併することが知られています。当科において外科的に治療された小児期発症の先天性胆道拡張症（脾胆管合流異常症）症例に検討を加えることにより、発癌メカニズムを明らかにすることを最終目的として研究を行います。

研究実施期間：実施許可日～2026年12月31日

対象となる方：1968年4月1日～2022年11月30日までの間、附属病院小児外科ならびに旧第二外科小児グループを受診し、先天性胆道拡張症と診断され、手術を受けられた方

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、先天性胆道拡張症の経過について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、病型分類と長期予後について、発症症状（胆道感染が主体か脾炎症状が主体か）、病型分類（レントゲン所見・術中所見から 胆管形態分類、脾・胆管合流形態分類の情報を抽出）、性別、手術時年齢、術式、病悩期間（発症時から手術時までの期間）、術後合併症の有無（早期のものと晚期のものも含めて）、術後治療の有無、術後経過期間、病理所見（胆管、胆嚢、肝生検）の情報を抽出し、統計解析的手法を用いて比較することで、長期予後に寄与する因子を明らかにしたいと思います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	小児外科・平林 健 連絡先電話番号 0172-33-5111（代表）院内 PHS4738 Mail : thirabay@hirosaki-u.ac.jp
--------------	--